

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三浦市一般廃棄物最終処分場	階数	地上1F
建設地	三浦市三崎町六合字堂ヶ島1848番地1外34筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 第一種風致地区	平均居住人員	2人
地域区分	6地域	年間使用時間	500時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2016年2月5日
敷地面積	26,180 m <sup>2</sup>	作成者	国際航業株式会社
建築面積	3,991 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月5日
延床面積	3,991 m <sup>2</sup>	確認者	国際航業株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>本建築物は一般廃棄物最終処分場の被覆施設であるため、主目的は最終処分場の稼働期間での降雨等の埋立地内への進入防止、埋立物の飛散防止である。さらに、埋立物の搬入、重機による埋立作業が安全に行えるように屋内環境を保全する。第一種風致地区内にあるため、最高高さを8.0m以内とし建築物の周囲は緑化を行い、周辺環境との調和を図っている。</p>	0
<p><b>Q1 室内環境</b> 最終処分場における重機を使用した埋立作業に支障のない室内環境の構築を目指した。ガラリ及びブルーファン換気で室内空気の制御を図る。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地は海岸に面した丘陵地と谷地で、斜面部は自然林を主体とした山林で「第一種風致地区」である。これらに配慮するため、建築物の最高高さを8.0m以内とし、建物、通路以外の敷地は、緑化を図り植栽を行う計画とした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 照明はLED照明を採用し、屋根の一部にトップライト(天窗)を設置して省エネルギーを目指している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 建物(処分場)内での重機作業に伴う騒音・振動の予測評価を行い、敷地境界線と環境基準値以下となるように建物位置を設定した。また、周辺の山林等にあわせて緑化を図っている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される